

## 令和3年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：看護部
第3期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）
<input type="checkbox"/> 1. 口腔領域における新規組織再生・再建法の開発 <input type="checkbox"/> 2. 高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発 <input type="checkbox"/> 3. 顎口腔機能の維持増進に関する研究 <input type="checkbox"/> 4. 歯科医学臨床教育の質保証に関する研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2020年9月7日～2023年3月31日
研究課題名：口唇裂・口蓋裂児の哺乳方法の可視化による理解の変化
<p>研究課題の概要及び成果：口唇裂・口蓋裂(以下、CLP)は、出産直後より哺乳に困難を認め、専用乳首による哺乳を選択する。しかし、その哺乳方法を具体的に述べた先行文献はほとんど見られない。また、産科医療機関は、CLPの哺乳に大変苦慮している現状があり、患児の裂幅や吸啜力などに問題があり哺乳困難となるケースを見受ける。当院では、CLP児が出生した産科医療機関へ早期に口腔外科医と出向き、看護師は当院固有の哺乳技術である熊谷メソッドを指導しているが、1回の訪問による哺乳指導では、医療者や児の家族が専門的な哺乳技術を習得することが困難なケースをみとめた。特に、専門性の高い知識や高度な哺乳技術を必要とするため、継続した技術指導の支援は必要である。</p> <p>2021年2月、哺乳技術確立を目指す遠隔教育プログラムとして制作したメディア教材をホームページへ掲載した。本研究の目的は、教材を視聴した前後の哺乳技術の理解の変化を明らかにすることであり、研究デザインはアンケート調査とし、これまでの哺乳指導の状況、哺乳の困りごと、3つの動画を視聴後の哺乳技術の理解についての実態調査を行った。得られた結果から動画により可視化することで、遠隔教育プログラムの発展に繋げ、さらなる早期哺乳技術の習得の向上へつなげることは、意義があると考えた。</p> <p>研究経過および結果として、2021年2月より制作した3種類の哺乳指導のメディアを製作し、ホームページへ掲載した。動画視聴後、アンケート調査に参加した160名のうち、一般視聴者68名について、細口乳首による哺乳技術について分析を行った。その分析項目は、細口乳首の挿入の長さ、角度、速度、乳首圧迫であり、いずれも有意差(<math>p &lt; 0.01</math>)を認め、哺乳方法の理解へつなげられていることが明らかになった。現在、出向先の産科医療スタッフ・患者家族に対する教育ツールとして活用しており、その対象者への実態調査を進め目標数への達成を目指し研究を継続している。</p>
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）
<input checked="" type="checkbox"/> 関連がある <input type="checkbox"/> 関連はない